

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科・経営戦略専攻
大項目	4 教員組織
中項目	
小項目	4.0.1 教員組織
要素	<p>教育課程における専任の教員を必要と認められる数を任用しているか。</p> <p>教員組織の構成において、「教育研究上の目的」の達成のために必要と認められる授業科目に必要かつ十分な専任の教授又は准教授を任用しているか。</p> <p>教員組織の構成において、「教育研究上の目的」の達成のために必要と認められる実務家教員を任用しているか。</p> <p>教員組織の構成において、「教育研究上の目的」の達成のために必要と認められる専任の教員と非専任の教員との割合に配慮しているか。</p> <p>教員組織の構成において、教員の年齢構成の割合、男性・女性教員の比率及び外国人教員の任用等教員の多様性に配慮しているか。</p> <p>開講授業科目について高度の教育上の指導能力があると認められる下記の各号に該当する専任の教員を、専攻ごとに「文部科学大臣が別に定める数」(平成15年文部科学省告示第53号第1条。以下同じ。)を置いているか。</p> <p>1) 専攻分野について、教育上又は研究上の業績を有する者</p> <p>2) 専攻分野について、高度の技術・技能を有する者</p> <p>3) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者</p>
小項目	4.0.2 教員の資格
要素	<p>教員の任用及び昇任に関する規則及び基準を定めているか。</p> <p>教員の任用及び昇任に関する審査プロセスを明確に定め、客観的な審査をしているか。</p> <p>最近5年間の教育研究業績等により教員の教育上の指導能力を評価する組織的な取組をしているか。</p> <p>専任教員の最近5年間の教育研究業績の資料を開示しているか。</p> <p>実務家教員の実務経験について定期的に評価を行い、授業科目担当の割り当てを適切に行っているか。</p>
小項目	4.0.3 教員に対する教育研究支援
要素	<p>教員の教育研究活動の推進と教員の授業担当時間数との関係について、適切な範囲にとどめるように配慮しているか。</p> <p>教員の教育研究活動の推進に必要な研究費獲得の支援体制を整備しているか。</p> <p>教員の教育研究活動の推進に必要な事務職員及び技術職員等の支援体制を整備しているか。</p> <p>教員の教育研究活動の推進に必要な教育課程の活性化を図る適切な措置を講じているか。</p>
小項目	4.0.4 教員の任務
要素	<p>教員は、自己点検評価及び学生の授業評価の結果に基づいて、授業の内容、使用教材及び授業方法等の改善を絶えず行っているか。</p> <p>教員は、学習目標の達成のために、先端的な高度専門的知識や技能の教授に努めているか。</p> <p>教員は、学習目標の達成のために、オフィスアワーの設定及び電子媒体等を通じて学生との対話を積極的に図り、学生の学習指導に努めているか。</p>

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. Improve the educational standard by activating the FD activities. FD活動の活発化による教育水準の向上	→Improve FD activities. (Number of guest speakers and times for inviting them) FD活動の充実(回数及びゲスト・スピーカーの人数)	B	B			
2. Further improvements in the level of student satisfaction on the quality of classes offerd. (授業の質に関して、学生の満足度を向上。)	→The level of student satisfaction surveyed every quarter (score on Q.13; "Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students," averaged over all classes). (クォーター毎の学生の満足度調査(Q13の「コースに満足しているか、知り合いに勧めるか」のスコア、全クラスの平均))	B	B			
3. Increase in the number of full-time tenured faculty members. (任期の定めのない専任教員の数を増やす。)	→% of full-time tenured faculty members over allocated positions (6). (IMC教員の定員枠に対する任期の定めのない専任教員の比率。)	C	B			
4. Promote research by acquiring the out-of-university research fund. 外部研究資金の確保による研究推進	→Increase 1.5 times of out-of-university research fund. 外部研究資金の金額を1.5倍に増加させる	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 教員組織 (説明) すべての項目において適切に対応している。 We improved FD activities by increasing the number of guest speakers and times for inviting them; however it was not as many as we planned. FD活動を充実(回数及びゲスト・スピーカーの人数)させた。しかし、予定した回数を行うことが出来なかった。
小項目4.0.2	4.0.2 教員の資格 (説明) すべての項目において適切に対応している。 We improved a little about the level of student satisfaction surveyed every quarter (score on Q.13; "Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students," averaged over all classes) but not to the extent that we anticipated. クォーター毎の学生の満足度調査(Q13の「コースに満足しているか、知り合いに勧めるか」のスコア、全クラスの平均)は少し改善されたが、さらに向上させるべきだと考える。
★小項目4.0.3	4.0.3 教員に対する教育研究支援 (説明) すべての項目において適切に対応している。 We increased the % of full-time tenured faculty members over allocated positions (6). IMC教員の定員枠に対する任期の定めのない専任教員の比率は向上した。しかし、さらに向上させるべきだと考える。
小項目4.0.4	4.0.4 教員の任務 (説明) すべての項目において適切に対応している。 We were not successful in increasing 1.5 times of out-of-university research fund. 外部研究資金の金額を1.5倍に増加させることはできなかった。
その他	

《評価指標データ》

- ★ FD活動の充実(回数及びゲスト・スピーカーの人数)
- ★ 学生の満足度調査;任期の定めのない専任教員の比率
- ★ 外部研究資金の金額

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
小項目4.0.2	
★小項目4.0.3	
小項目4.0.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	FD活動の充実については、2011年度より専門委員会を設置して、FD活動の充実を検討している。
小項目4.0.2	
★小項目4.0.3	
小項目4.0.4	今年度に科学研究費などの申請を経営戦略専攻で行う予定。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
小項目4.0.2	
★小項目4.0.3	
小項目4.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
小項目4.0.2	
★小項目4.0.3	
小項目4.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

○自己点検・評価は、研究科の状況や考え方を社会に分かりやすく説明する役割もあります。このシートを見ればある程度のこと分かるようにしておく必要があります。そのためにも、「教員組織が適切だ」というなら、それが何をすればわかるのか明示しておくことも必要ではないでしょうか。

○4つの目標の進捗についても説明が十分ではありません。例えば、4.0.1であれば、ゲストスピーカーは何回予定していて何回実施できたのか。予定した回数実施することができなかったにも関わらず「充実させた」とする根拠はどこにあるのか、4.0.2であれば満足度調査のスコアは何ポイントを目指していて、何ポイントまで改善されたのかの説明が必要ではないでしょうか。

○各評価項目について適切に対応されていることが伺えます。ただ、各評価項目の要素が多いので、現状説明は簡潔にする必要があるとは言うものの、「適切に対応している」だけでは現状がつかめず、不十分な感じがするものがあります。数字を示すなど根拠が必要な箇所があります。

○2009年度に設定した目標に具体的な数値も盛り込み、進捗評価も改善もより具体的に進められることを期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2011年4月30日現在、教員数は専任教員14名（教授8、准教授5、助教1）、任期教員1名、任期制実務家教員6名 計21名である。2012年度よりIMC教員が1名増員となる。

★ 教員の採用は次のような厳格な手続きを経ている。3名の当該分野の専任教員からなる教員探索チームを設立し、学識や年齢が適切な教員候補を探索し、その結果を専攻会議で審議する。その後、その結果を人事委員会で審査し、2回の教授会での審議・投票を経て採用が決定される。

ゲストスピーカーは5名を予定していたが実際は3名であった。学生満足度は0.5ポイント増を見込んでいたが、0.2ポイント増であった。